

中酪情報 No.597

2022年1月31日発行
毎号奇数月末発行

発行：一般社団法人 中央酪農会議
編集・発行人：寺田 繁
〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町2-6-1
TEL:03-6688-9841 FAX:03-6681-5295

ご意見・ご感想をお寄せください。

読者の皆さまにもっと本誌をご活用いただきたく、より良い誌面作りに向けて努力してまいります。本誌へのご意見やご要望、ご感想がございましたら、電話・FAX・ホームページにて下記の「中酪情報」編集部までお寄せください。皆様のご意見・ご感想をお待ちしております。

宛先及びお問合せ先

〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町2-6-1
一般社団法人 中央酪農会議「中酪情報」編集部
TEL:03-6688-9841 FAX:03-6681-5295
<http://www.dairy.co.jp/>
(中酪HP「お問い合わせ」ページよりアクセスできます)

編集後記

本号では、農業の持続可能性向上のため“より環境に優しい次期共通農業政策（CAP）”を決定したEUの話題を取り上げました。わが国においても、「家畜排せつ物処理法」をはじめとする法的な環境整備とともに、畜産農家の経営努力のもとで環境負荷を軽減する取組が進められています。

わが国では、2021年の農業技術10大ニュースの中に、農研機構と栃木県による「アミノ酸バランス改善飼料で牛排せつ物由来の温室効果ガスを削減－地球環境に配慮した畜産の実現に期待－」が入選しました。

これは、1年間に新聞記事となった民間企業、大学、公立試験研究機関及び国立研究開発法人の農林水産研究成果のうち、内容に優れるとともに社会的関心が高いと考えられる研究成果10課題が、農業関係専門紙・誌など29社が加盟する農業技術クラブの会員による投票で選定されたものです。

農研機構と栃木県は、アミノ酸バランスを改善した飼料（慣行飼料で給与過剰となりやすいタンパク質原料の配合割合を減らし、不足がちになるリジンやメチオニンを補った飼料）を肉用牛に給与することで、排せつ物から発生するN₂O（一酸化二窒素）を半減できることを明らかにしました。この飼料の給与による牛の増体や肉質への影響はなく、地球環境に配慮した肉牛経営が実現するようですが、酪農経営での応用も期待されます。